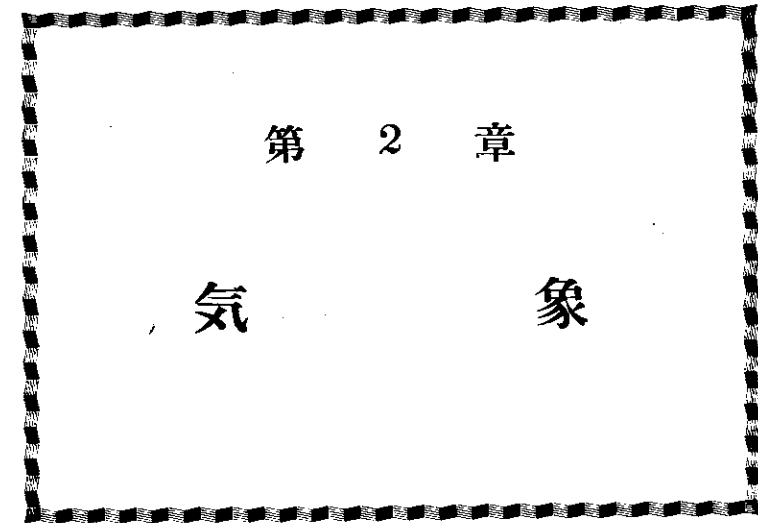


第 11 表 府 県 別 民 有 地

本表は全国の各市町村（東京都では区）が保管している土地台帳または土地補充課税台帳に登録された土地のうち、地方税法第 5 条、第 343 条及び第 344 条の規定により課税の対象となる土地にかんする各年 1 月 1 日現在の数字である。

府 県	総 数	田	畑	宅 地	山 林	牧 場	原 野	塩 田
昭 和 27 年	14 768 335	3 012 732	2 657 376	513 783	7 135 128	...	1 445 097	4 219
28	14 874 955	3 011 461	2 659 401	515 016	7 070 596	162 731	1 451 672	4 079
29	14 895 046	3 014 164	2 674 652	521 830	7 042 144	168 960	1 469 593	3 705
30	14 999 549	3 022 177	2 702 369	529 310	7 084 123	168 651	1 488 840	4 079
北 海 道	2 514 948	159 002	651 733	24 778	880 475	151 891	647 069	-
青 森 県	314 573	69 576	69 952	9 027	94 327	3 097	68 594	-
岩 手 県	662 937	64 227	79 616	11 051	383 925	5 539	118 577	-
宮 城 県	275 063	97 801	42 575	11 242	112 621	-	10 772	53
秋 田 県	270 292	108 678	28 322	9 769	75 271	32	48 221	-
山 形 県	316 330	93 829	41 103	9 863	139 900	-	31 635	-
福 茨 県	503 277	104 918	91 103	13 277	260 688	26	33 266	-
茨 城 県	400 206	94 224	129 292	20 665	140 458	209	15 359	-
栃 木 県	336 795	76 524	72 069	13 975	157 854	1 507	14 866	-
群 馬 県	264 470	35 282	86 616	12 265	106 766	1 447	22 094	-
埼 群 馬 県	245 936	67 199	93 763	19 454	60 850	-	4 671	-
千 葉 県	347 187	103 182	86 895	19 275	118 733	1 609	17 493	-
東 京 都	110 853	8 640	33 531	30 648	35 459	19	2 556	-
神 奈 川 県	138 061	19 232	44 904	16 657	50 215	436	6 617	-
新 潟 県	476 913	177 523	58 818	17 617	206 362	-	16 593	-
富 山 県	144 992	77 242	11 759	7 118	46 061	-	2 812	-
石 川 県	159 635	53 422	16 906	6 055	79 552	-	3 676	25
福 山 県	173 474	47 180	9 915	5 170	108 470	67	2 673	-
山 梨 県	123 489	18 940	33 110	4 872	54 010	-	12 557	-
長 野 県	422 747	76 999	96 113	14 225	142 162	1 668	91 580	-
岐 静 愛 三 県	477 234	64 946	35 666	9 750	356 860	5	10 007	-
伊 豆 県	420 368	58 404	70 895	15 380	250 221	-	25 468	-
静 岡 県	266 281	91 015	57 672	23 822	90 415	-	3 332	26
愛 知 県	284 431	70 058	29 791	9 414	171 280	-	3 889	-
滋 賀 県	162 411	58 973	8 275	6 376	85 776	-	3 011	-
京 都 府	165 457	40 418	15 662	8 718	98 312	-	2 347	-
大 阪 府	87 945	41 086	9 230	17 206	19 618	-	806	-
兵 庫 県	424 930	101 757	20 106	18 006	277 155	6	7 156	744
和 歌 山 県	147 194	30 021	9 425	3 850	99 809	-	4 090	-
鳥 取 県	263 479	26 833	15 689	4 465	215 289	-	1 203	-
島 根 県	143 763	33 216	15 549	3 888	60 985	160	29 965	-
島 根 県	404 243	53 157	26 534	5 531	315 266	37	3 718	-
岡 山 県	319 938	85 448	32 755	10 532	186 696	-	4 115	394
山 西 県	446 203	72 478	31 782	10 889	327 750	1	2 886	418
徳 島 県	282 414	70 137	21 648	10 065	174 575	-	5 496	493
香 川 県	204 953	27 367	23 392	4 751	148 417	-	685	360
愛 媛 県	106 566	37 698	12 535	5 564	49 442	-	205	1 122
高 知 県	282 570	43 670	45 794	7 441	183 852	0	1 531	281
徳 島 県	331 713	34 137	48 800	3 686	242 346	-	2 745	-
福 岡 県	256 331	105 489	32 126	19 912	73 382	2	25 398	23
佐 賀 県	135 162	53 364	17 409	5 042	39 185	-	20 161	-
長 門 県	167 939	31 927	53 154	7 263	60 451	-	15 144	-
熊 本 県	266 216	75 999	80 694	11 552	73 312	688	23 970	1
大 宮 府	199 463	55 036	34 516	7 561	62 484	-	39 731	136
鹿 児 島 県	209 899	46 014	48 008	7 814	77 851	24	30 187	-
	340 270	59 912	127 188	13 832	89 238	180	49 917	2



(注) 単位：町。資料 自治庁税務部市町村税課「土地平均価額、総地積、総面積等一覧」。

第 2 章 気 象

(1) 昭和31年の気象概況

昨年10月以後は台風26号が紀伊半島に上陸して北東進して若干の被害があった以外は特筆する異常気象もなく大体順調であった。雨量は近畿中部で平年より少く北部と南部では平年より多い目で経過した。

本年に入って冬型気圧配置が強くて、日本海側は昨年より雪が多く、そのため平年より雨量はやや多かったが、寒さは平年並であった。2月は前月に引き続き冬型の気圧配置が強くて日本海側の降雪多く、太平洋岸も発達した低気圧の東進で雨量多く、近畿中部のみ平年の半分位であった。3月に入っては日本海から高気圧がおおうこと多く日本海側では時雨や降雪がやや多く、太平洋岸では低気温の東進で南部では雨量が多かった。

これらは春から夏にかけての気象状態が、近年全国的に異常を示しているのと合致している。今年も3月後半から西日本では天気がぐづつ傾向を示し始め、5月に入ると西日本の太平洋側では梅雨模様の天候が続く、5月下旬には全般に平年よりも約20日早く梅雨に入った。したがって本年の5月は「五月晴れ」の日はほとんどなく、5月中晴の日は一般に2、3日しかなかった。気圧配置の概況をみると、5月上旬の前半にかけては移動性高気圧はあまり発達せず、一般に日本海南部を通ることが多かった。一方本年は太平洋高気圧が早くから強くなり、この期間には前線が本邦の南に接近して停滞し、弱い低気圧がひんぱんに四国沖を東進した。このため山陰地方は比較的気象がよい方であったが、西日本の表側特に四国や紀伊半島では天気がぐづつき雨の日が多かった。5月中旬の後半に入ってから、やや優勢な移動性高気圧が本土上を通過するようになり、また一時的ではあるが関東東方海上に出来た高気圧が発達して本土をおおうこともあったので、西日本の天気はやや回復し、月始めから北上していた前線もかなり南下していた。しかし5月22日優勢な移動性高気圧が本邦を過ぎかたあとを追って、東支那海から東進して来た998ミリバールの低気圧が九州北部で停滞し、5月23日ごろからは気圧配置は梅雨型となり、西日本の南岸に接近して前線帯が現われ、前線帯上の四国沖を低気圧がひんぱんに通過し西日本は連日雨模様の天気となった。

西日本では7月12日平年並に梅雨が明けると気温は急に上昇し、最高気温は連日30°C以上に達した。特に7月下旬の26日から暑さは更に厳しくなり、台風9号の接近した8月16日ごろまで連続した。本年8月前半の平均気温は、大阪管内では一般に平年より1~2°C高くなり著なるものであった。なお管内各地の8月の最高気温の極値は多数の測候所において過去の1、2、3位の記録を更新している。気圧配置の概況をみると、7月下旬から8月前半にかけて、優勢な高気圧が根強く西日本一帯をおおい、このため西日本一帯は暖気に支配され北方からの寒気は西日本まで到達することなく、しかも西日本をおおう暖気は沈降が著るしかなかった。これらにより西日本では、連日晴天が続きにわか雨もなく、気温は平年より高い日が続いた。

今回の高温寡雨により中国及び近畿の一部では8月中旬に入ると局地的な水不足が現われ始めたが、8月16~17日にかけての台風9号による降水で水不足が解消された。

台風9号は西日本の旱天に終止符を打ったが、これを転機として8月下旬に入ると今までの高温寡雨はたちまちにして異常な低温多雨に変じ、その結果農作物に悪影響をもたらした。この低温多雨の現象は特に中国及び近畿の北部中部で甚だしく、これらの地方においては平均気温、最低気温極、雨量、降水日数等が、この時期の記録で他に匹敵

すのものが無いほどのものがあった。

天気図によれば、極方面の高気圧は8月中旬のはじめごろから著るしく発達して、極地方一帯を広くおおういた。8月17日から18日にかけて台風9号が山陰沖から北海道の東方洋上を北東進したのに伴い、極方面の優勢な寒気は台風の後面に向かって急速に流れ出して来た。オホーツク海、あるいはベーリング海西部を經由して南下を続けた寒気は19日には日本海から本州をおおうにいたり、このため20日朝は特に甚だしい気温低下をもたらした。なおこの南下して来た寒気と太平洋高気圧に伴う暖気との境界にあたる本州南岸ぞいには楊子江流域にのびる顕著な前線が形成された。このため8月下旬の気圧配置はまったく梅雨型を示し、ことに27日から31日にかけては梅雨の最盛期のよう状態であった。

7月下旬から8月前半にかけての高温寡雨は稲作に好影響をもたらしたが、8月下旬には異常な低温多雨となって水稻の育成状態が懸念され出したが、9月上旬は再び異常な高温となり、この結果昨年引き続きの豊作がほぼ決定的となった。また大阪管内では各所とも、この期間中に9月の最高気温の極が発見され、各地の測候所では本年の値が過去の最高気温高極の1~3位の記録を更新した。

9月上旬の気圧配置の概況をみると、8月下旬本州南岸沿いに停滞して悪天候をもたらした前線は9月に入ると消滅し、太平洋高気圧が急激にその勢力をまし関東東方洋上から広く本邦一帯をおおうにいたった。この状態が上旬いっぱい続いたため西日本は連日好天候に恵まれて気温が上昇した。

11月中旬より本邦は西高東低の冬型気圧配置の持続することが多く、たまに東進する気圧の谷も全般的な雨を降らすにはいたらず、この傾向は12月中旬に入って更に顕著になり月末ごろまで連続した。このため11月中旬から本邦は一般に気温は平年以下となり、表日本では温度が低下し、特に12月の中旬以降月末ごろにかけて空気は異状な乾燥状態を呈した。降水量も11月10日以後は12月4日と8日に5~10ミリ程度の雨があったほかはほとんど雨らしい雨もなく寡雨状態が継続した。大阪でのこの期間中の無降水継続日数をみると、12月9日から29日までの21日間で創立以来の無降水継続日数の記録と比較すると今回は第4位である。

異常乾燥のため表日本の各地では火災の発生が増加し、特に12月の下旬は多かった。大阪市内の出火件数をみると平年の約160件に対して今年は209件の多きを示しており、火災件数も全焼43件、半焼11件と甚だしく多くなっている。大阪の実効湿度は12月に入ると60%合に低下、更に月半ばには50%合となり16日から27日ごろまで51~53%という記録的な乾燥状態であった。

火災発生の増加のほか流行性感冒が全般的に発生したのも12月の特長であった。流感は11月ごろから発生し始めたが、特に12月の中旬ごろには大流行し、阪神地方の学校で臨時休校する所が続出した。その後月末ごろには気温も上昇したためか一時下火となった模様である。なお農作物も連日の無降水によりかなりの影響を受け、麦類は発芽状況が悪く、また冬野菜も生育状態が悪く、特に年末には需要の激増と重なって市価が著るしく高騰した。このほか電力事情もかなり悪化した。

以上のように表日本の異状乾燥と寡雨は記録的なものであったが、裏日本特に近畿以東では季節風が卓越したため表日本とは対称的に12月はほとんどしぐれ、または雪しぐれの悪天が続く、10日、15日、24日ごろを中心とする寒波襲来時には一般にかなりの降雪があり、滋賀県北部方面では下旬に近年まれな大雪があった。

第 1 表 大 阪 管 区 気 象 台

本表は「大阪気象要覧」によったものである。

位 置	経 緯 度		海面上高 メートル	創立年月日 年月日	主要機器位置 メートル	
	東 経 度	北 緯 度			水銀気圧計 (海面上)	温度計 (地面上)
大阪市生野区勝山通9丁目72	135.32	34.39	6.7	明治15.7.1	水銀気圧計 (海面上) 2.0	温度計 (地面上) 1.5
					碗形風速計 (地面上) 18.6	自記風圧計 (地面上) 18.8
					雨量計 (地面上) 0.2	自記雨量計 (地面上) 2.7
					露場海面上の高さ 6.7	

(注) 資料 大阪管区気象台。

第 2 表 大 阪 の 気 象 概 況

本表は「大阪気象要覧」によったものである。気圧はmbであらわしmmに換算するには3/4をかける。(例) 1000mb=750mm。気温は°Cであらわし日平均値は(3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24時)の8回、最高は0~24時、最低は前日9~当日9時の日界である。湿度は相対湿度と呼び日平均値(3, 9, 15, 21時)の4回、最小の自記紙より記入する。雲量は0~10の目測により日平均値は(3, 9, 15, 21時)の4回で日平均7.5以上は雲、同2.5未満は快晴日数にとる。風速はm/sで0~24時の全行程から日平均値を、最強は10分平均値、風向は16方位、風速0.5以下に静穏とする。降水量は前日9時~当日9時の日界、毎時の表は0~24時の日界、単位は水の溜った深さをmmであらわす。日照時数は真太陽時により、時以下は分数1/10法による。したがって日合計8.4は8時24分の意味である。

年 月	平均気圧 基準面 MB+1000	気 温 (°C)			相 対 湿 度 (%)	平 均 雲 量 (%)	風 速 度			降 水 量		日照時間 総 数 (時)
		平均 (8回)	最高	最低			平均速度 (米/秒)	最強風向	最大速度	総 量 (ミリ)	最大時量	
平 年	15.2	15.1	19.1	10.8	74	6.0	2.7	NE	29.8	1,332.4	63.8	2,188.9
昭 和 31 年	15.3	15.4	19.9	11.5	70	6.2	3.2	ESE	18.0	1,452.9	32.4	2,032.3
1 月	16.4	4.7	8.7	1.1	66	5.6	4.8	ENE	16.8	27.1	2.8	140.5
2	16.1	4.3	8.8	0.3	63	5.7	4.2	ESE	18.0	22.6	3.4	169.8
3	19.2	8.7	13.4	4.9	72	6.6	3.1	NW	14.5	181.3	12.3	149.6
4	14.8	13.6	18.8	8.8	64	6.0	3.1	SSW	14.9	108.2	7.0	211.5
5	13.3	17.7	22.1	14.0	73	8.1	2.8	WSW	11.8	229.9	11.4	157.8
6	9.6	23.0	27.5	19.4	74	8.0	3.0	SSW	12.2	196.3	26.2	156.8
7	8.6	26.8	31.1	23.3	74	6.1	2.9	WSW	9.4	111.4	32.4	210.4
8	9.7	26.7	31.3	22.8	71	5.9	3.0	SSW	14.7	108.2	19.1	213.7
9	13.8	23.9	28.6	20.4	76	6.7	2.8	NNE	13.0	282.5	24.0	156.6
10	18.6	18.2	22.8	14.7	74	7.0	3.0	SWNE	10.1	130.3	24.1	120.7
11	22.0	11.3	16.2	6.8	73	5.2	2.2	W	9.1	40.7	6.3	160.3
12	21.8	5.6	9.6	1.2	60	3.8	4.0	W	13.9	14.1	2.2	184.6

(注) 資料 大阪管区気象台。

第 3 章
人 口